

第138回 地区内中小企業景気動向調査結果

(令和5年4～6月期実績・令和5年7～9月期見通し)

1. 調査時点 令和5年6月1日～6月7日
2. 調査対象企業数 170社中回答 170社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率(%)
製造業	従業員 300人以上	1	1	100.0
〃	従業員 300人以下	34	34	100.0
建設業	従業員 300人以下	2	2	100.0
〃	従業員 50人以下	40	40	100.0
卸売業	従業員 50人以下	8	8	100.0
小売業	従業員 50人以下	55	55	100.0
サービス業	従業員 300人以下	1	1	100.0
〃	従業員 50人以下	29	29	100.0
合計		170	170	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・DI値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課（TEL. 0146-22-4100、内線 855）
〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 170 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 概 況

今期(令和5年4~6月期)の業況判断D.I.は△22.3と、前期(△40.6、令和5年1~3月期)比18.3ポイント上昇した。また、前年(△30.3)比では8.0ポイント上昇した。前期(令和5年1~3月期)調査時点での今期(令和5年4~6月期)見通し(△33.0)を10.7ポイント上回る水準となった。業種別の業況判断D.I.は、製造業△22.9(前期△20.0)、建設業△24.4(同△38.2)、卸売業△25.0(同△75.0)、小売業△30.3(同△45.4)、サービス業△3.4(同△49.9)となった。

売上額判断D.I.は△0.7と前期(△41.2)比40.5ポイント上昇、収益判断D.I.は△12.4と前期(△44.7)比32.3ポイント上昇した。

来期(令和5年7~9月期)の予想業況判断D.I.は△23.5と、今期実績比1.2ポイントの下降見通しとなった。業種別にみると、製造業△14.3(今期△22.9)、建設業△14.6(同△24.4)、卸売業△37.5(同△25.0)、小売業△33.9(同△30.3)、サービス業△23.4(同△3.4)と来期を見通している。

【業種別天気図】

時期 業種	地 区 内				北 海 道	全 国
	2022年 10月~12月	2023年 1月~3月	2023年 4月~6月	2023年 7月~9月 見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						

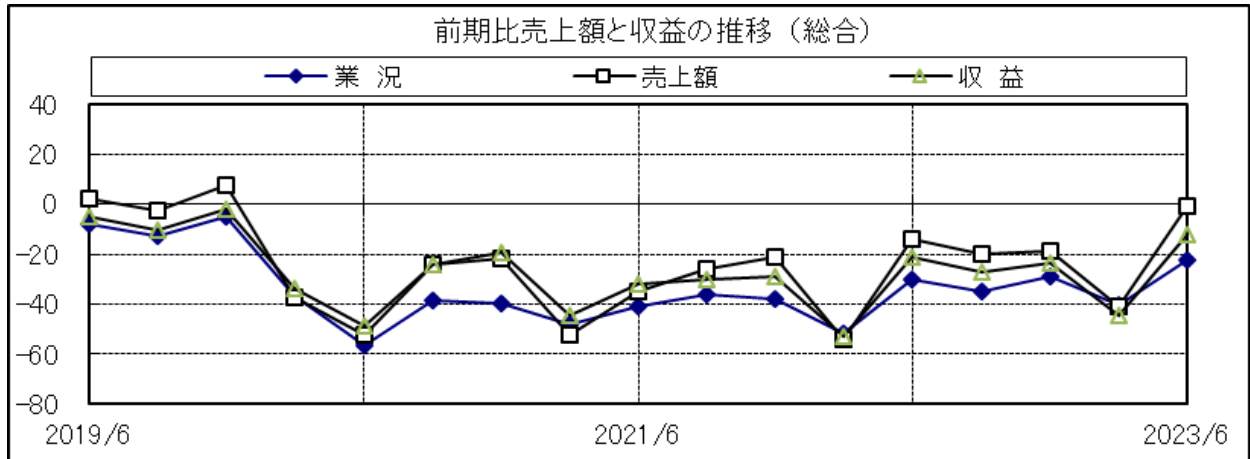
好調 ← → 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

□ 景 況

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
業 況	-29.2	-40.6	-22.3	-23.5
売上額	-18.7	-41.2	-0.7	-2.9
収 益	-23.3	-44.7	-12.4	-10.6

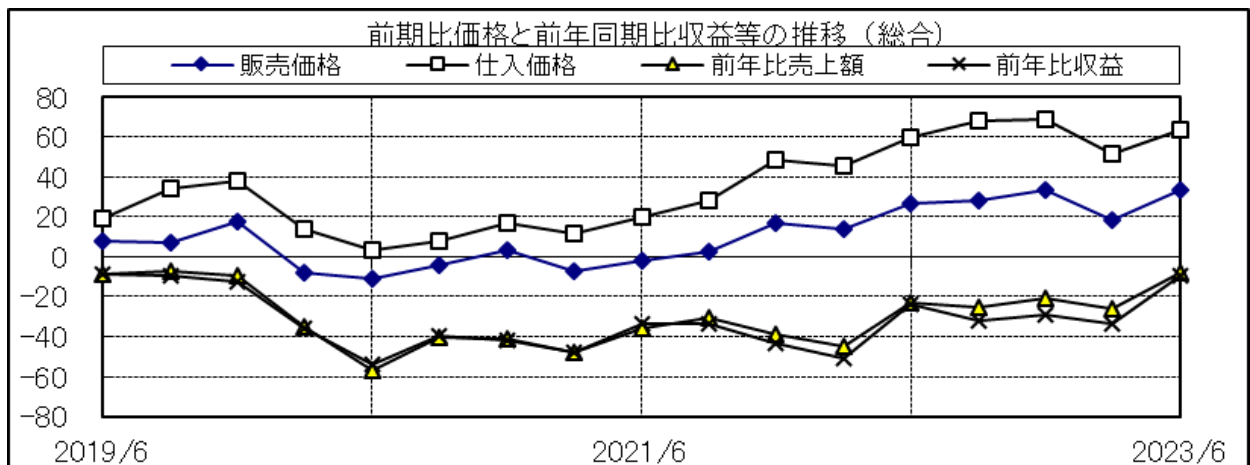
全業種総合の今期の業況判断 D. I. は $\Delta 22.3$ で、前期比18.3ポイント上昇、前年($\Delta 30.3$)比では8.0ポイント上昇した。地区別の D. I. は、高い順に、静内が最も高く、次にえりも、様似、三石、広尾と続き、浦河が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は $\Delta 0.7$ で、前期比40.5ポイント上昇。収益判断 D. I. は $\Delta 12.4$ で、同32.3ポイント上昇した。



□ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
販売価格	33.3	18.3	33.5	27.6
仕入価格	68.9	51.2	63.6	52.4

販売価格判断 D. I. は33.5で、前期比15.2ポイント上昇、前年(26.3)比で7.2ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は63.6で、前期比12.4ポイント上昇、前年(59.6)比で4.0ポイント上昇した。前期比での販売・仕入価格を業種別にみると、小売業で販売価格が下降したが、他は全て上昇している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
残業時間	2.4	-5.8	-2.9	-2.8
人手状況	-29.8	-24.1	-32.9	-30.1

残業時間判断 D. I. は $\Delta 2.9$ と、前期比2.9ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 32.9$ と、前期比8.8ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

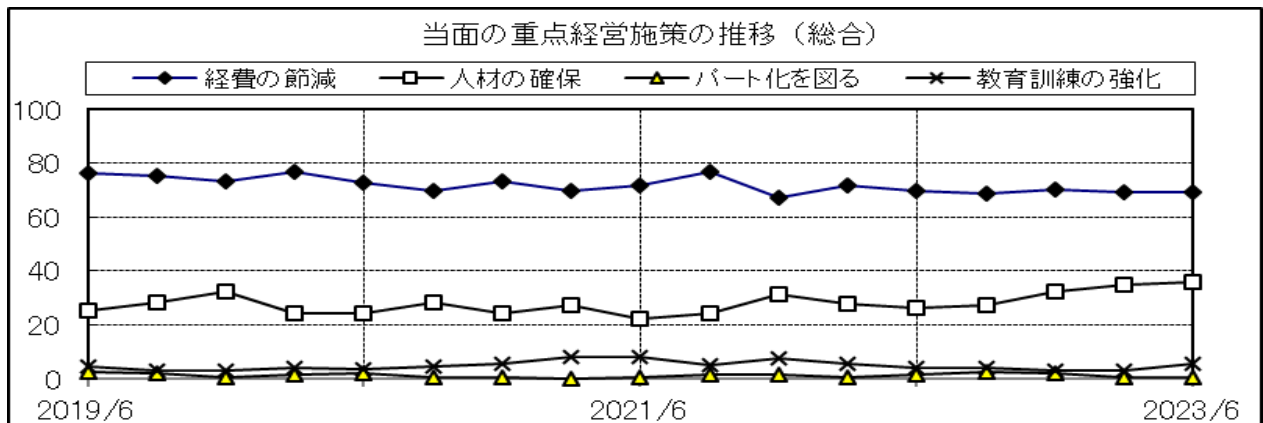
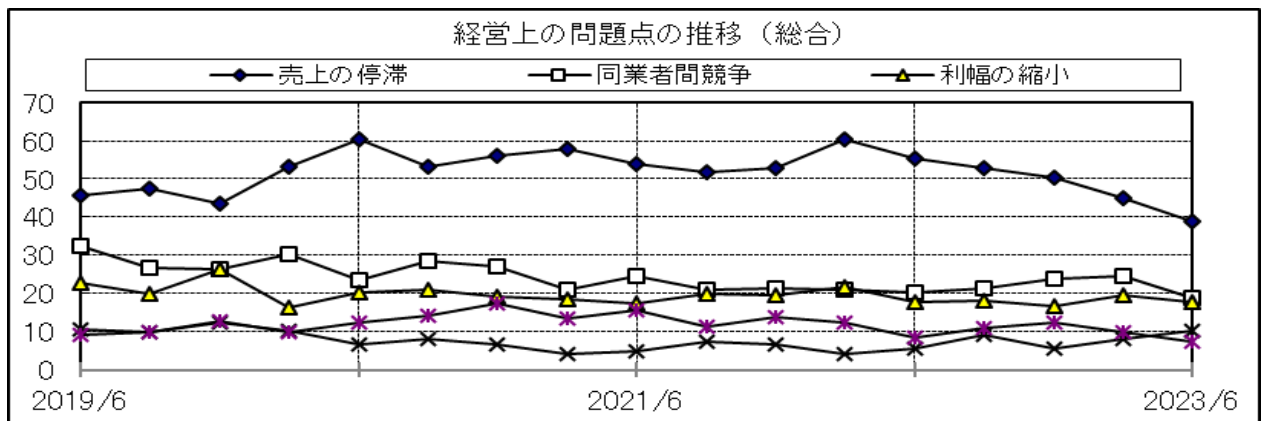
設備投資の充足感を示すD. I. は△8.8で、前期(△6.5)比2.3ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は11.8で、前期(12.4)比0.6ポイント下降した。設備投資は、前期21社に対し、20社の実施となった。来期の設備投資は、19社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が38.8%で最も多く、次に「人手不足」27.3%、「同業者競合」18.8%、「利幅縮小」17.6%、「諸経費増加」11.5%、「人件費増加」10.3%、「地場産業衰退」7.3%、「天候不順」2.4%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が69.3%で最も多く、次に「人材確保」35.7%、「教育訓練強化」5.7%、「不動産有効活用」が3.6%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△23.5と、今期比1.2ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は△2.9と、今期比2.2ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は△10.6と、今期比1.8ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は27.6と、今期比5.9ポイントの下降を見通している。

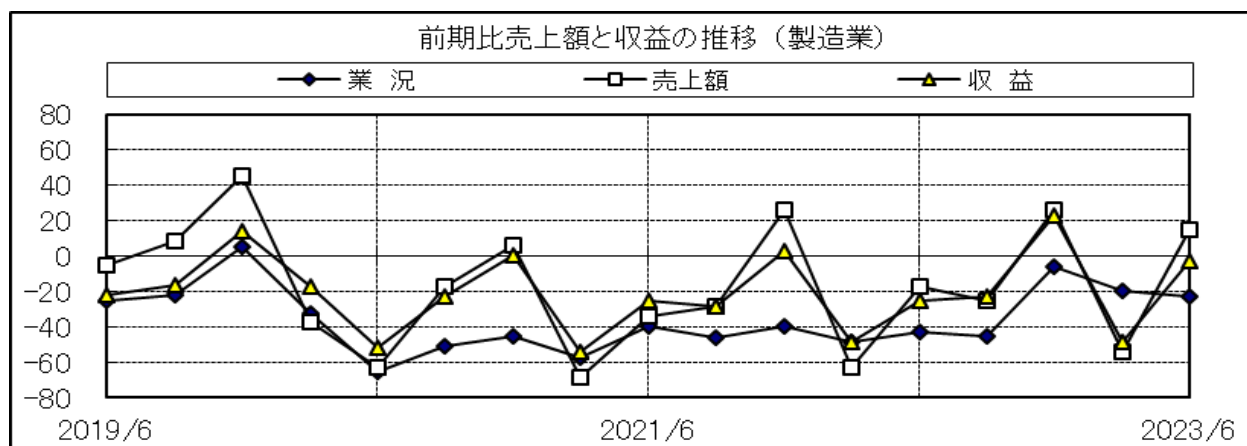
予想仕入価格判断D. I. は52.4と、今期比11.2ポイントの下降を見通している。

製造業 35 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
業 況	-5.7	-20.0	-22.9	-14.3
売上額	25.6	-54.3	14.4	-2.8
収 益	22.9	-48.5	-2.9	0.1

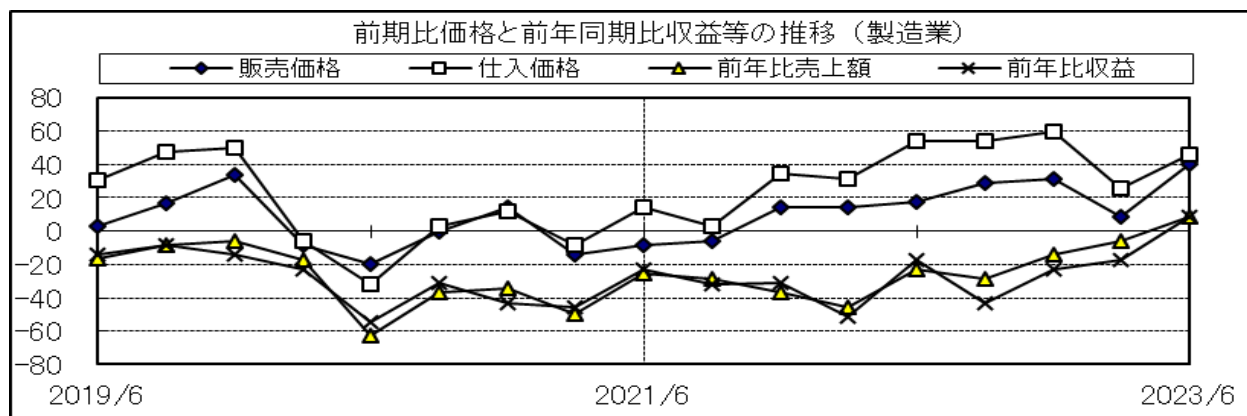
今期の業況判断 D. I. は△22.9 で、前期比 2.9 ポイント下降。前年(△42.9)比では 20.0 ポイント上昇した。地区別の D. I. は高い順に、様似が最も高く、次にえりも、広尾、静内、浦河と続き、三石が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は 14.4 で、前期比 68.7 ポイント上昇。収益判断 D. I. は△2.9 で、前期比 45.6 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
販売価格	31.5	8.5	39.9	17.1
仕入価格	60.0	25.7	45.7	42.8

販売価格判断 D. I. は 39.9 で、前期比 31.4 ポイント上昇、前年(17.2)比では、22.7 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 45.7 で、前期比 20.0 ポイント上昇、前年(54.3)比では 8.6 ポイント下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
残業時間	17.1	0.0	11.4	2.9
人手状況	-54.3	-31.4	-42.8	-44.2

残業時間判断 D. I. は 11.4 で、前期比 11.4 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△42.8 で、前期比 11.4 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

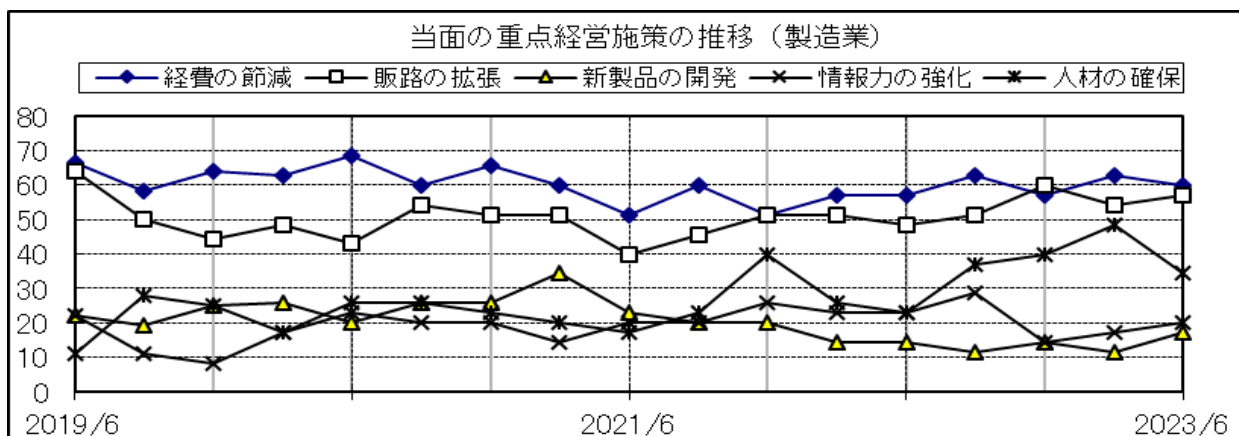
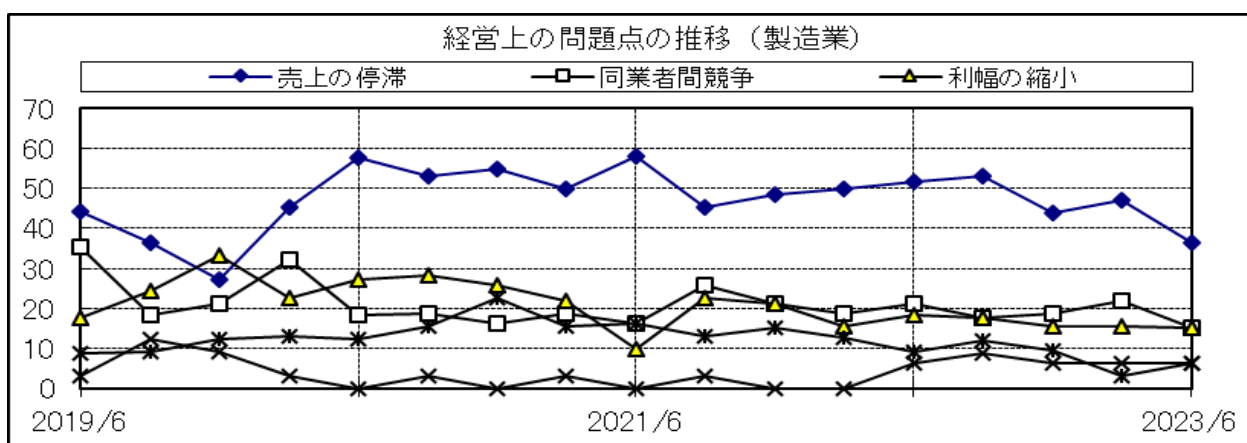
設備投資の充足感を示すD. I. は△20.6で、前期(△8.6)比12.0ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は20.0で、前期(22.9)比2.9ポイント下降した。設備投資は、前期8社に対し7社の実施となった。来期の設備投資は、9社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「原材料高」が54.5%と最も多く、次に「売上停滞減少」・「人手不足」が36.4%、「工場機械の老朽化」27.3%、「諸経費増加」24.2%、「値上要請」18.2%、「同業者競合」・「利幅縮小」が15.2%、「生産能力不足」9.1%、「大手企業競合」・「人件費増加」・「地場産業衰退」が6.1%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が60.0%と最も多く、次に、「販路拡大」57.1%、「人材確保」34.3%、「情報力強化」20.0%、「新製品開発」17.1%、「機械化促進」11.4%、「提携先確保」・「教育訓練強化」が5.7%、「不採算部門縮小」・「パート化」・「工場増設移転」が2.9%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△14.3と、今期比8.6ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は△2.8と、今期比17.2ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は0.1と、今期比3.0ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は17.1と、今期比22.8ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は42.8と、今期比2.9ポイントの下降を見通している。